

## はじめに

「時事問題」の授業は、始まってまだ3年目である。3年前、「時事問題」を始めるにあたり、社会科の職員でどのような内容にするかで頭をしぼり、選択教科の利を生かしたゼミ形式の授業をやらうということで方向性がまとまった。具体的な中味の点でルールを敷いてくれたのは1年目に担当した先生で、以後そのルールに乗って現在におよんでいる。

## Welcome to Jiji World

### 1. 「時事問題」選択にあたり

「時事問題」は商業科3年生（男子10名、女子69名）の選択科目で、週3時間の授業である。本校教育課程では、「選択B」という枠に含まれ、2年次の12月頃3年次の選択教科を決める際、{時事問題・生物IB・オーラルコミュニケーションB・情報管理・音楽I・美術I・商業経済・数学演習・税務会計}の中から1教科を選択することになる。

選択希望の調査にあたっては、事前に教科担当が授業中に説明を行ったり、最後の研究発表会を社会科の授業を使って見学させたりしたこともあり、生徒達は前もって「時事問題」の大まかな内容について理解したうえで選択してきている。そのためか、「社会科」を好きな生徒が集まっており、なかにはすでに研究課題を決めて選択してきた生徒もいる。

本年度の選択人数は男子2名、女子13名の計15人である（ちなみに初年度は16人、2年目は12人）。1年次に「世界史」を教えたため顔馴染みの生徒達だった。

### 2. 計画

一昨年、昨年を参考に大まかな計画を立てた（資料1）。ほぼ、計画通りに進んだが、「社説の読み比べ」は普段の授業中には実施できず、自習の時間を使った。また、中間発表会は普段の授業で補えてしまったために行はず、発表会は年度末の1回とした。計画にはなかったが、「壁新聞作り」や文化祭での展示発表など実施したものもある。

4月10日の最初の授業では、各自の自己紹介をした後、資料1と同じプリントを配り1年間の計画を説明した。また、授業中に行う「発表」の順序をくじで決定した。

### 3. 「時事問題」のねらいと主な内容

#### A. 論文執筆のために

この授業の最終的な目標は、原稿用紙30枚以上の研究論文を書き上げることである。それには、当然テーマを絞らなければいけないし、正しい言葉の使い方や文章の表現力も身につけさせなければいけない。また、参考資料の理解力や様々な視点で物事を見つめる広い視野も必要になってくる。そして、何よりも自ら考えた自分の意見を持たせなければならない。

1年間の授業の内容は、実際に論文を書くにあたり、これらの“力”をいかにつけさせるかが全てだったと言っても過言ではない。

以下の5つが「時事問題」の授業の骨子である。

- ①「新聞切り抜き帳」の作成
- ②新聞を使った授業中の発表
- ③研究論文の執筆
- ④「建設標」への投書
- ⑤文化祭での展示発表

## 実践内容

### ①「新聞切り抜き帳」作成（資料2）

まず、4月の最初の授業で生徒各自にスケッチブックを渡した。スケッチブックは、毎日毎日の新聞の切り抜きを貼り、記事の要約と感想を書くためのものである。また、記事の見出しを書き込む表形式の用紙も配り、スケッチブックの表紙の裏側に貼らせた（見出しは自分で考える）。記事の内容は、1学期の前半には第1面のトップに限定したが、後半からは視野を広げさせるために第1面の中で自由に選ばせることにした。

このような作業を1学期を通じて、月～金に毎日行わせた。つまり、生徒達にとっては毎日の「宿題」になったわけである。当然生徒達にはかなり苦痛だったと思う。毎日コツコツとやる生徒もいれば、何日分もためてまとめてやる生徒もいた。スケッチブックは月1回回収して点検を行った。

### ②新聞を使った授業中の発表（資料3）

月・火・金の通常の授業は、新聞の切り抜きを使って事前に作ってきた資料で、1時間に2人ずつ発表し、それについて皆で意見を出し合うという形式である。発表者以外には、感想用紙に感想や意見を書き込ませて回収した。各自の感想は私が次の時間までにまとめてプリントにし、授業の最初に前の授業を振り返るというスタイルをとった。

私が最も苦心したのが「普段の授業」をいかに身になるものにするかだった。

発表といっても、自分で作った資料を読むだけで、時間にしたら2～3分だ。その後、意見を出し合うといっても、なかなか意見が出るわけがない。そのため、全員が発言できるように、私の方で質問形式にして指名しながら発言させることが多かった。質問する際、気を掛けたのが、「自分だったら…」という視点を持たせるような質問にすることだった。生徒とやりとりができ、生徒の意見が聞けて、生徒自身が自ら考えるような質問を考えるのに毎時間苦勞をした。

例えばこんな質問をしてみました。

▽「あなたなんかうちの子じゃありません。」という言葉は、子どもへの虐待になるとおもいますか？（児童虐待についての発表で）。

同じ問いかけを4月と10月の2回した。4月には「虐待になる」という生徒もいたし、「ならない」という生徒もいた。しかし、10月に聞いたときには、「前提として、親子の信頼関係によるのではないか。」というように答えた生徒が多かった。

▽うちの学校の名簿は、男子が先で女子が後に書かれてますが、それはなぜでしょう。不思議に思ったことはありませんか？（男女差別について、男女混合名簿の資料での発表で）。

多くの生徒は男女混合名簿について、何の疑問も感じずに過ごしてきたと答えた。そして、生徒達自身が最も驚いていたのは、何の疑問も感じずにこれまで男女混合名簿を使ってきた自分達自身のことだった。

▽妊娠したあなたが、出生前診断をしたところ胎児に先天的な異常が見つかりました。あなたは、その子を産みますか？（遺伝子治療についての発表で）。

「考えてしまう」という生徒が多いなか、「産みます」とはっきり答えた生徒もいた。女子が多いということで、このように母親になったらとか、子供ができたらとかという視点の質問が自然と多くなった。

▽あなたは、子供の家庭内暴力で困っています。どうしますか？（家庭内暴力についての発表で）。

「第三者に相談する」とか「暴力がいけないことだということ

諭す」とか「違った形でストレスを発散させる」とかありきたりな答えが多かったが、「警察を含めた第三者に頼る」という答えもあった。また、「子供に暴力をふるわれたら、親も殴って、お互いに殴り合って愛情を確かめ合えば良い」という答えもあり爆笑にはななかったが、みんな変に納得してしまったりした。

▽母乳にはダイオキシンが含まれており、人工乳で育てると突然死の危険がつきまとうという発表がありました。あなたなら、どちらを選びますか？（突然死とダイオキシンという発表で）。

「何が良くて何がいけないのかという正確な情報が欲しい」という答えが多く、曖昧な情報におどらされてはいけないということでもとまった。

授業では、ゲスト・コメンテーターとして、他教科の先生にも来てもらい、コメントしてもらったことも度々ある。この時には、子育ての経験のある女性の先生に自分の経験やら意見やらを話してもらった。

参考までに、1学期に生徒たちが選んだ発表テーマ（55テーマ）のいくつかをあげておきたい。

『沖縄のアメラジアン』『革命の指導者ポル・ポト元首相死亡』『しつけと虐待』『オゾン層破壊の危機』『迫る介護保険制度導入』『ハイマツの枯死』『バタフライナイフを有害指定』『自然公園に建設廃材不法投棄』『ミカンを食べてガン予防』『DNA鑑定結果、父子ではない』『少年法改正問題を考える』『老後の人生をもっと楽しく』『第3者の卵子を体外受精』『インドに対抗し、パキスタンも核実験』『米国少年法「成人扱い」』etc

### ③ 研究論文の執筆

各自の大まかな研究テーマが決まったのが夏休み前後である。夏期休業中の宿題としてテーマに沿った本を2冊以上読み、中間報告書なるものを提出させた。そして、2学期の10月以降の授業の発表は、自分の研究テーマに沿う中味で新聞以外の本や雑誌も発表資料として良いことにした。

それと並行して、2学期のはじめに指導教官を決定した。これも例年のことだが、時事問題を受け持つ職員1人だけでは、すべての生徒の論文指導を十分に行うことが出来ない。そこで、社会科職員全員（4人）で受け持つ生徒を割り振り論文指導にあたった。

11月末には期末テストのかわりという名目で、「章立て」の作業を行わせた。授業中に論文の構成などについての一般的な説明を行い、期限を設けてそれぞれの指導教官のところで点検してもらい提出させた。彼らにとっては、論文執筆のルールが出来たわけである。

11月いっぱい授業時間も発表を行い、授業時間を原稿執筆に充て

るようになったのは、12月に入ってからである。そして、原稿締切は1月18日とした（実際には1週間延期したが…）。つまり、執筆に使える期間は、1カ月半というところだった。

これぐらいの期間があれば、十分に仕上げられると思っていたが、そこらへんは、私が生徒たちの能力をか過信し過ぎていた点だった。所詮、生徒たちにとって原稿用紙30枚にも上る文章を書くのは生まれて初めての体験だったのだ。筆がそんなに簡単に進むわけがなかった。

原稿執筆は生徒たちにとって、かなり苦痛だったようだ。言いたいことがうまく文章で表現できないことのじれったさの繰り返し、かなりのストレスになっていたようだ。「もうやだ。」と弱音を吐く子もいたし、途中で投げ出したくなったと、振り返る生徒も多かった。なかなか、手がかかず本当に間に合うのかとこちらがヒヤヒヤする子もいた。

今年はパソコンのワープロソフト「一太郎」に入力し、フロッピーディスクの形で提出させることにした。この理由にはまず文章の追加や削除が楽なこと、また、生徒たちが商業科の生徒のため、ワープロの使用には皆ある程度手慣れていたことなどによるが、一番は内容的に素晴らしい論文に仕上がったら、今年こそ一冊の本に仕上げたいというほのかな期待があったからだ。

#### ④「建設標」への投書（資料4）

夏休み中の宿題として、「建設標」（信濃毎日新聞の投書欄）への投書の原稿を書かせた。これは、最終的な論文執筆のための練習が目的だった。しかし、実際生徒たちの原稿に目を通してビックリした。というのも、あまりに文章が稚拙なものばかりで、そのまま新聞社へ送るわけにいかなかったからだ。結局、全ての原稿を添削して清書させるのに、かなりの時間を要してしまった。授業時間にしたら、休み明け3～4時間はかかった。おかげさまで、2名の生徒の投書が新聞にのせてもらえた。

#### ⑤文化祭での展示発表

10月の文化祭前は、個人研究の展示発表準備に多くの時間を費やした。個人研究の中間的なまとめにするのに適当だと考えたのと、何より、自分の研究内容を伝える努力をさせることが大切だと思ったからだ。授業時間はもとより放課後などを使わせたが、生徒達もよく努力をしたと思う。多い生徒で模造紙10枚、少ない生徒でも3枚をかきあげ、「時事問題」のスペースで模造紙約70枚の展示となった。論文執筆に際しても、発表のために調べた知識が多いに役に立った。

## まとめにかえて

1年間生徒達の姿を見ていて、本当に良くやったと思う。確かにテストが無いから考え様では楽に見えるかも知れない。しかし、今生徒達にとって、特に論文執筆に入ってから、どれだけ苦痛の連続だったかと思う。

では、なぜ、生徒達は、この大変な作業を途中で投げ出さずに成し遂げることができたのでしょうか。私も生徒達の姿を見ながら、彼らの背中を押しているのが一体何なのかずっと考えてきました。

答えは、生徒個々で違うでしょうし、私の推測でしかありませんが、少しふれさせてもらいたいと思います。

まず、ひとつには「時事問題」を選ぶ所から始まって、全て自分で選んだことだからということがあると思います。自分に対する責任感みたいなものです。

次に、「時事問題」の授業によって、彼らの知識欲に少なからず火を付けることができたのだと思います。彼らは今まで、ただ何となく高校生活を送ってきただけで、世の中のことや勉強のことなど考えたこともなかった。つまり、彼ら自身には潜在的には知識欲があったのに、それを掘り起こすチャンスがなかったのです。だから、彼ら自身が無意識のうちにそれに気づいたとき、それまでためられていたエネルギーが一気に爆発したのではないのでしょうか。

さらにもう一つ考えられることをあげたいと思います。格好良い言い方をすれば、この授業は彼らにとって「自分探しの旅」だったと思うのです。これは彼らがテーマを決める段階で私が感じたことです。彼らは自分のことや自分達の世代のことを知りたいのです。表面的なことだと例えば、「なぜ、キレやすいのか。」「高校生が覚醒剤に走るのはなぜか。」「なぜ、拒食症になるのか。」とかですが、もっと底の方では「僕らは何のために生きているのだろう。」とか「ただ何となく過ごしているだけで良いのか。」とか「苦しいことと楽しいこと…」とか、そういったモヤモヤしたものを解きほぐそうと彼らが奮闘しているように思えてならないときが何度となくありました。きっと彼らはそんなことを意識もしていないでしょうし、もしかしたら私の勝手な思い込みだったのかも知れません。でも、これから彼らが生きていく上で、きっと糧になってくれるとは思いたいですね。

Welcome to Jiji World

(予定)

4/14 ~ 6/2

新聞切り抜きで発表(授業)

第1面切り抜き帳作成(毎日)

6/5 ~ 7/22

新聞切り抜きで発表(授業)

(社説の読み比べ)

8/31 まで

論文題材決め

9/1 ~ 11/20

論文の内容で発表(授業)

※担当教官決定

11/24 からの期末試験で中間発表会

12/1 ~ 1/12

論文執筆

1/30 からの期末試験で研究発表会

生徒15名

A 2	阿部 恵
14	小林めぐみ
17	佐藤由佳子
25	達家真由美
29	馬場久美子
31	原のり子
32	原田麻衣
39	山崎奈美
B 6	柴本雅俊
9	長嶋拓也
11	野由香
12	金井優子
29	島純代
32	馬場聖子
33	馬場治美

(資料2)

スケッチ  
↓  
ブック

(資料1) 時事問題1年間の流れ

# インド再び核実験

また核実験したインド  
本日は終了してくれますか

インド政府は西部デハスランジ  
のホムラン砂漠の核実験場で  
新たに2回の地下核実験を  
実施すると発表。  
今回を計画していた一連の実験  
をすべて終了することを  
明らかにした。

## 日米が経済制裁、追加必至

### 対抗姿勢を鮮明に

#### 地下で2回「終了」と発表



【インド】インド政府は西部デハスランジのホムラン砂漠の核実験場で新たに2回の地下核実験を実施すると発表。今回を計画していた一連の実験をすべて終了することを明らかにした。

### <感想>

ホムラン砂漠の実験場がなんか知らないけど  
イヤだ"なんか。  
そんなに実験してどうするの。どうしたいの。  
放射能を漏出はなかったってほんとにそーなのか  
インドの人はよく分かんない。

周りのことを考えてたら核実験なんて出来ない  
と思うけど。インドの人の言い方が気に入らないので  
実験してほしくない。

発表資料

記事の見出し

少年法改正問題を考える

記事の要約

神戸の連続児童殺傷事件の小6高年児童は... 少年法改正問題に関心をもたせたいと... 少年法は「基本的な精神は...」

感想・意見など

少年犯罪が盛んになって... 少年法改正... 少年法に改正してほしいと思っただ。...

信濃毎日 昭和5月29日(月)

氏名 高橋 浩美

Questionなど

被害児童の父... 悲しみは消えない 犯行の少年罰あつて当然... 被害者の名前や年齢に関するリスト

← 9月10日 9月12日 ↓

若者も真剣に戦争を学ぼう... 最近、市立図書館で戦争関係の本を借りてみた...

しかし三年ぶりに見つけ、懐かしう... 「公的資金」 「戦後五十年」という題で、全校の前で発表したものであり、私にとっては自信作だった。...

地球救う行動 少すつでも 私は空を見ているのが好きです。気持ちよく青い空を見ていると、落ち着いてく...

やまひこ

「地球の心臓を救う」 株式会社 松本市・農業園芸 (田)



リサイクルがある。バックヤトレイはこみをきちんと分別することによりサイ... 牛... た...

ただ、自分たちのできることを少すつならちやうどいけるだろう。その一つに... 一人ひとりの行動が地球を救う。少し面倒だと思ふかもしれないが、本心にまかせたことが、この地球を守ることにつながるのだ。...

(資料4)